

No.1966

6月13日例会 プログラム 「イニシェーションスピーチ」 岡 眞司君
6月20日例会 プログラム 「任期を終えて」 松尾会長 谷口幹事
6月13日のメニュー ・キーマカレー ・オクラのスープ ・野菜サラダ ・フルーツ ・コーヒー

前回（6月6日）例会記録

出席報告	会員総数	36名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	23名	欠席者数	11名	出席率	67.65%	前回補正率	82.35%
	前回補正者	三宅(照)君 仲田君 岡君								
	欠席者	藤田君 藤原君 花岡君 石川君 井上君 仲田君 中山君 大久保君 小野田君 島田君 山田(次)君								

会長挨拶

6月は、ロータリー・カレンダーでは「ロータリー親睦活動月間」になっております。本日は三宅孝治会員の卓話をお聞きます。また6月5日は「環境の日」です。これは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められました。そして、我が国では6月の1ヶ月間を「環境月間」とし、全国で様々な行事が行われます。世界各国でも環境保全の重要性を認識し、様々な行事が行われています。殊に、最近では、地球温暖化が問題になり地球的气象異常が続発しており、その対策が急がれるところです。サブプライムローン問題から、ドル安・インフレ懸念が高まり、原油に投機マネーが集中し、5月以降の相場加熱ぶりはバブル状態にあり、6月に入ってレギュラーガソリンが170円台になりました。原油高は食糧の値上がりとなって、世界的に混乱を来しています。6月3日、「食糧サミット」がローマで開会し、福田首相が緊急追加支援を表明しています。7月に開催される「北海道洞爺湖サミット」では、温室効果ガスの排出量を「2050年迄に世界全体で半減」という長期目標を掲げる予定です。我々ロータリーも無関心ではられません。日本の得意とする省エネ技術は、今がビジネスチャンスかもしれません。個人的にも省エネ、地球温暖化防止に協力してください。

会長報告

- ・ 新入会員安江様の入会に対し異議申し立てがありませんでしたので、入会手続きを進めます。
- ・ 本日例会後、理事役員会を行います。

幹事報告

- ・ 玉野市内各中学校・玉野市スポーツ振興財団よりAED寄贈に対するお礼状が届いています。
- ・ 森下ガバナー事務所より地区大会記念誌送付の際に挨拶文の添付を忘れていたとのことでした。そのことのお詫びの書面が届いています。
- ・ 『友』インターネット速報No.334,335,336が届いています。
- ・ 6月のロータリーレートは1ドル=102円です。
- ・ 森下ガバナー事務所よりサイクロン・四川省地震への支援活動状況アンケート問い合わせが届いています。
- ・ 6月27日の例会は19:00よりダイヤモンド瀬戸内マリンホテルにて夜間例会に変更して行います。
- ・ ミントハウスチャリティーコンペの案内が届いています。希望される方はご参加願います。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

委員会報告

- ・ 親睦・家族委員会(三宅孝治委員長):《誕生日祝》松尾君14日、富永君30日
《結婚記念日祝》緋田君1日、山田(孝)君22日
- ・ 次期親睦・家族委員会(岡委員長):来年度の誕生日祝、結婚記念日祝の記念品リストをボックスに入れておきますので、希望品名をご記入願います。
- ・ 地区青少年交換委員会出席報告(三宅孝治委員):2009年8月から1年間の交換学生3名の募集があります。募集要項がクラブ宛来ますので、ご検討願います。申し込みの締め切りは10月31日です。

スマイル・ボックス

- ・大西君 - 仲田さんへ、昨日は医師会員大勢に造船所で研修をいただき感謝申し上げます。
- ・渡邊君 - 仲田さん、6月5日(木)三井造船での産業医実地研修会ありがとうございました。
- ・松尾君 - 仲田様、昨日の工場見学ありがとうございました。 誕生月。
- ・高橋(秀)君 - クラブ協議会出席ありがとうございました。
- ・三宅(孝)君 - 本日、卓話をさせていただきます。
- ・林君 - 早退。 ・緋田君 - 結婚記念。
- ・富永君 - 誕生月。 ・山田(孝)君 - 結婚記念。 ・三宅(一)君 - 入会月。日頃の遅刻、早退のお詫び。

プログラム 「ロータリー親睦活動月間に因んで」 三宅 孝治君

6月は、共通の職業的関心やレクリエーションへの関心を持つロータリアン同士の国際親睦と親善の重要性を認識し、親睦活動への参加の増加およびこのプログラムに対する理解を促進するため、RI 理事会によってロータリー親睦活動月間として指定されています。

親睦を目的として出発したロータリーも、長く真摯な論議を重ねながら、大きな変貌をとげました。その結果、現在のロータリーの定款や細則の中から親睦の文字を見つけ出すことはむずかしく、僅かに親睦活動委員会の項目に、その痕跡を止めているに過ぎません。もはやロータリー・ライフの中で親睦は不必要になってしまったのでしょうか。

ロータリーの二本の柱として、ロータリアンのほとんどは親睦と奉仕をあげますし、新しいロータリー年度が始まって、新会長の挨拶にも決まって親睦と奉仕という言葉が述べられます。親睦と奉仕がロータリー・ライフを支える二本の大きい柱であることは、疑いのない事実です。親睦が失われればクラブは崩壊するだろうし、奉仕がロータリー運動の大きな目的であることは疑いのない事実です。

ロータリーが定義する親睦と奉仕は、いかなる辞書を引いても正しい解釈が活字化されていないロータリー独自の概念であり、さらに、それを正しく理解しない限り、ロータリー思想の原理を語ることはできないのです。

Fellowship を [親睦] と訳したことに問題があるのかもしれませんが、むしろ、[友情] とか [友愛] と訳す方が理解しやすいでしょう。ちなみに、米山梅吉がポール・ハリスの This Rotarian Age を翻訳するに当たって、その書名を [ロータリーの理想と友愛] としたことは、理想 = 奉仕、友愛 = 親睦を意味するものであり、戦前のクラブ組織表では、親睦活動委員会の代わりに友愛委員会の名称が使われています。

ロータリーが定義する親睦とは、一体、どんなことなのでしょう。敢えて結論を先に述べれば、[親睦] とはロータリークラブが、クラブとして存続していく上で欠かすことのできない必要条件となる、ロータリアン個人個人の心が結合した状態を表す概念なのです。

ロータリー運動の実体を、見事に表した言葉として、[入りて学び、出でて奉仕せよ Enter to learn, Go forth to serve] という言葉があります。世の中のあらゆる有用な職業から選ばれた裁量権を持った職業人が、一週一回の例会に集い、例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動のことを [親睦] と呼ぶのです。例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリー・ライフなのです。

[親睦と奉仕] の対比は、[理想と実践] [奉仕の心の形成と奉仕の実践] [クラブ内の活動とクラブ外の活動] [前提と結果] にも対比させることができます。すなわち、ロータリー・ライフの一方の柱はクラブ内の活動を通じて行われる [親睦] すなわち [奉仕の心の形成] [ロータリー活動の前提] であり、これらを行う場は例会であり、もう一方の柱は、クラブ外で個々のロータリアンによって、家庭、職場、地域社会、国際社会を対象として行われる [奉仕活動の実践] であり、それが [ロータリー運動の結果] となるのです。

世に有用な職業を全て正業と考えるロータリーの職業観から、職業の貴賤や上下関係を認めていません。大会社の社長も小さな商店の店主も、元請も下請けも、すべて平等であり、世俗の論理や縦社会のしがらみ一切を認めないのです。すべての職業は尊重されなければならないという発想が生じ、それが職業倫理を高めるといふ奉仕の心の形成へ発展していきます。ロータリアン同士はすべて対等と考えなければ、真の親睦は生まれません。親睦あるが故、あるときは師となり、徒となって、互いに切磋琢磨しながら奉仕の心を形成する作業が可能になるのです。

資本主義を背景として生まれたロータリー運動は、最高の利潤を追求したいという利己心と、世のため人のために如何にすべきかという利他心を調和する哲学です。永続性のある適切な利潤を獲得するために到達した経営哲学が「良質の職業人とは、自己改善を重ねて、自分の職場を健全に守るとともに、取引先・下請業者・従業員・顧客・同業者など、自分の事業と関係を持つすべての人に幸せを分かち合うことである。そして、その心を持って事業を営めば、必ず最高の利益が得られることを自分の職場で実証することによって、奉仕の精神の必要性を地域全体の職業人に伝えていく」という職業奉仕の理論を構築し、お互いがそれぞれの業界の職業情報を持ち寄ってその理論を実践する具体的な方法を研究するのが例会の場なのです。一人一業種で選ばれた会員が毎週開かれる例会に集まって、お互いが師となり徒となって、奉仕の心を学び自己研鑽を重ねます。それをロータリー運動の一つの柱と考えて、それを達成するために試みられる、ロータリアン同士の真の友情に裏打ちされた凡ゆる活動のことを、ロータリーでは [親睦] として意義付けているのです。

「ロータリー精神は親睦と奉仕の調和の中に宿る」